
男が死んで、そして。

そこぬけ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

男が死んで、そして。

【Nコード】

N5771D

【作者名】

そこぬけ。

【あらすじ】

明るく、優しい一人の男。誰からも好かれる彼が死んで、そして。。。

今日も遠くから、太陽が顔を出してきた。

「ああ、朝か・・・起きないとな」

会社勤めの彼は眠気を覚ますために顔を洗う。

トイレを済ませ、朝食を食べ、いつものように背広に着替えて家を出ようとする。

「おっと、今日は燃えるゴミの日だったな」

右手に一週間分のごみが詰まった袋を持って外に出る。

ゴミ捨て場に同じ地域の老人がいたので、彼は挨拶をした。

「おはようございます、良い天気ですね」

「おはよう、今日は一日中晴天らしいなあ」

軽く挨拶を済ませた彼は、会社に向かって歩いて行く。

途中、隣の家に住むおばさんとすれ違ったので挨拶をした。

「おはようございます、朝の散歩ですか？」

「そうなのよ。この年になると足腰が弱くなってるねえ」

「そんなことはないです、まだまだお若いですよ」

「あら、そうかしら」

軽く挨拶を済ませ、会社に向かう。

会社に着いた彼は、上司に挨拶をした。

「部長、おはようございます。今日も一日よろしく願います」

「おはよう。今日も仕事、頑張ってくださいよ。」
会釈をして自分の席に座る。

「よお、今日も元気そうだな」

同僚が話しかけてきたので、返事をする。

「ああ、元気だけが取り柄だからね」

「ははは、違くないな」

。。。。

。。。。。。

。。。。。。。。

いつもと変わらない日常、それが何年続いただろう。

どこかで、井戸端会議の音がきこえてきた。

「ねえ、ききました。彼、死んだそうね」

「そうらしいわ」

「優しくて素敵な方だったのに」

「そうね、働きすぎが原因かしら？」

「ぶっ、あはははは。働き過ぎって、そんなわけないでしょう。た

だ古かっただけよ。」

「これだから旧式は嫌よね。やっぱり何でも新しい物が良いわ。」

彼が死んでも悲しむ者はいない。

なぜなら彼は、ロボットだから。。。。

(後書き)

「ロボットなのに死？」というツッコミはご勘弁を！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5771d/>

男が死んで、そして。

2010年10月20日12時52分発行